

建設現場における熱中症対策例

1. 設備の工夫

魚津労働基準監督署

事例	エアコン付き休憩スペース	エアコン付きユニットハウス(ソーラー発電)	日よけテント、ベンチセット
写真 ほか			
	直射日光を避け、エアコンにより火照った体をクールダウン。	同左	ユニットハウスが置けない場合などに設置。

事例	冷蔵庫、ウォーターサーバー	スポットクーラー	ミスト扇風機
写真 ほか			
	熱中症発症時は、冷やした飲料を摂取する方が体を冷やす効果が高いと考えられる。また、発症時に体を冷やす氷・保冷剤を保管する。 冷蔵庫 1 台とウォーターサーバー 1~2 台を設置するケースが多い。	スポットクーラーは、設置工事不要で据え置ける利点がある。 冷却範囲に限られるため、写真の例では簡易なビニールブースを設けている。	気化熱により気温を 3~6℃下げる効果がある。

2. 保護具・グッズ

事例	空調服	熱中症応急キット	水分・塩分
写真 ほか			
	空調服はファンの風によって汗を素早く蒸発させることで、体の熱を効率よく放出する。 バッテリーは長時間持つもの、発火リスクを考慮すると高性能なものが望ましい。	・専用クーラーバック ・瞬間冷却剤 ・扇子 ・冷却スプレー ・液晶体温計 ・テキスト ・飲料水 ・冷感タオル ・経口補水液パウダー ・電子体温計 ・WBGT 計	経口補水液などにより発汗により失われた水分・塩分を補給する。 ※多量の発汗を伴う作業場への水分・塩分の備え付けは、労働安全衛生法で義務付けられている。

3. 危険の見える化・その他

事例	掲示板	熱中症アラーム (WBGT 計)	安全教育・講習
写真 ほか	 	 	熱中症予防指導員・管理者講習の受講 ※厚生労働省通達により「熱中症の症状」「熱中症の予防方法」「緊急時の救急処置」「熱中症の事例」について受講するもの。 平成 28 年 2 月 29 日付け基安発 0229 第 1 号「平成 28 年の職場における熱中症予防対策の重点的な実施について」
	掲示板による「見える化」は、危険認識や作業上の注意喚起を分かりやすく知らせる有効なツール。	WBGT(暑さ指数)は、人体と外気との熱のやりとりに着目した指標で①湿度、②日射・輻射など周辺の熱環境、③気温の 3 つを取り入れた指標。25~警戒、28~嚴重警戒、31~危険。	

4. その他意見等

良かった点(作業員の声)

- ・エアコン付きの休憩室により体調管理がしやすくなった。
- ・空調服は本当にありがたい。空調服なしの作業は考えられない。
- ・体調など気にかけてもらえるのはありがたい。

課題

- ・猛暑の際は、こまめな休憩に配慮しているが、作業効率の低下と工程管理の調整が課題。
管理者は作業を止める判断が精神的な負担となる。
作業員も工程優先で無理をしてしまうリスクがある。
- ・アスファルト舗装では輻射熱などにより、空調服を使用しても熱風を取り込んでしまうなど特殊環境への対応には限界がある。

その他

- ・涼しい早朝・夜間の施工も検討したが、近隣住民の兼ね合いもあり断念した。
- ・作業を交代制にすることも検討したが、人手不足から難しい。

以上、新川地区で建設業を営む皆さまからご協力を得て作成しました。